

校内研究構想

東白川小学校

児童の実態

- 明るく素直な児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。
- 自分からあいさつをしたり、ありがとうの言葉を伝えたりすることができる児童が多い。
- 基礎学力の定着に個人差がある。
- 家庭学習や読書に意欲的に取り組めない児童がいる。
- 話すことに抵抗感をもっている児童がいる。
- ノートに書いたことは、発表できるが、対話的に話し合う力は低い。

学校の教育目標

せい いっぱい
きたえ
のびよう
東っ子

自分を出し切り
「笑顔いっぱいの学校」に

合い言葉「出し切る・見つめる」

東白川村教育夢プラン

【目指す子ども像】

- ① 自ら考えやり遂げる、主体性を持った子
- ② ふれあい助け合える、思いやりのある子
- ③ たくましい体力と気力を持った元気な子
- ④ ふるさを愛し、ふるさを誇れる子
- ⑤ 社会の一員という自覚を持ち、規範を重んじ貢献できる子

めざす姿

- ・自分に自信をもち、主体的に学び、相手意識をもって話したり書いたりすることができる子
- ・安心して自分の考えを伝え合える「心が開かれた」集団
- ・郷土のよさに気づき、郷土を愛する心情や態度がもてる子

研究主題

進んで出し切り，自分に自信をもつ子どもの育成
～子どもが出し切りたくなる授業，自分を見つめさせる指導～

研究仮説

少人数でこそそのメリットを最大限に活かした指導のもとに、子ども達が出し切りたくなる授業を計画し、授業中の子どもたちの様子に応じて、対話を通し授業を展開する。また、子ども自身の変容を見つめさせる活動を意図的に仕組めば、進んで自分を出し切り、教師や仲間とともに学習を深め、自分のよさに自信をもつ子どもを育成することができる。

研究内容

研究内容1 出し切りたくなるための授業の工夫

(1) 子どもが出し切りたくなるための学習活動の工夫

- ・学習の必然性があり、子どもが主体的に取り組める学習課題（問題）を設定する。
- ・深い学びにつながる学習形態を工夫する。
- ・授業中の児童の思考に合わせて、指導を行う。（対話を通して、臨機応変に）

(2) 少人数であることのメリットを活かした3つの見届けの実践

- ・特に学習の定着状況の見届けを確実にに行い、個に応じた支援を行う。
- ・授業の「出し切る」を児童に示し、その点についての状況を確実に把握し、単元や単位時間で児童全員が「出し切る」を達成できるように指導する。

研究内容2 適切に自己評価するための指導の工夫

(1) 少人数であることのメリットを活かした適切に自己評価するための教師の工夫

- ・単元や単位時間の導入と終末の児童の変容を児童に捉えさせる工夫（見つめさせる視点、声かけ、手立て等）をし、単元や単位時間の終末に児童が自身の変容を実感できる「見つめる」活動を位置づける。
[学んだ内容、できるようになったこと、学び方で身につけたこと等]